

◇-----◇
下水道の最新情報をお届けします！

発行日：2012. 3. 12

下水道機構の『新技術情報』 第37号

(財) 下水道新技術推進機構 <http://www.jiwet.or.jp/>

◇-----◇
まだまだ寒い日が続いていますが、陽射しに春の気配を感じる今日この頃。先日、とある方から中国、大連産の鷹の爪の種をいただきました。偶然にも父が大連生まれなので、感慨深く種を眺めていました。ちょうど今頃が種まきの時期とのことなので機構のマイデスクにて鉢植えで栽培計画中です。機構にお立ち寄りの際は、企画部へ観察にお越しく下さい♪

さて、今週も機構メールマガジン『新技術情報』第37号をお届けします。

業務に Tea Break にご活用ください。

■□■■□トピックス□■■□■

★インフォメーション

- ・3月6日(火)に第2回下水道クイックプロジェクト推進委員会が開催されました
- ・3月8日(木)、日本下水道事業団の野村部長をお迎えして技術サロンを開催しました！

★機構の動き

- ・今週は、3月16日(金)に第17回下水道新技術研究発表会【大阪会場】が開催されます。

★Tea Break

- ・時間の遅れ (ペンネーム 澄都くんからの投稿です)

★みなさまからのコラム

- ・掲載情報募集中！

機構の新技術情報でお伝えしたい情報をお持ちの方は本コラムをご活用ください。

情報提供はこちらまで→ jiwet@jiwet.or.jp

★国からの情報

- ・3月8日付け下水道ホットインフォメーションです

インフォメーション (最新の話です)

●3月6日(火)に第2回下水道クイックプロジェクト推進委員会が下水道新技術推進機構で開催されました。

第1回委員会に引き続き、今年度は、現在、社会実験中の工場製作型極小規模処理施設（接触酸化型およびPMBR）の初期対応としての一次評価（供用開始直後の処理状況の確認）と、クイック配管（側溝活用）を審議対象としています。

第2回委員会では、第1回委員会で頂いた指摘事項を中心に社会実験の追加データ等を加えながら報告を行いました。極小規模処理施設に関しては、通常の定常流入下とは異なり、水量が少ない供用開始直後を評価対象としており、そのため第2回委員会では処理性能と維持管理の考え方を中心にいくつかご指摘を頂きました。クイック配管（側溝活用）に関しては、昨年度一般化されたクイック配管（露出配管・簡易被覆）の技術評価書に、社会実験から得られた留意事項を加筆することで一般化が承認されました。

委員会資料等は、後日ホームページに公開される予定ですので、詳しくはそちらをご参照ください。↓

<http://www.mlit.go.jp/crd/sewerage/mifukyu/index.htm>

また、既に一般化された5つの技術につきましても、ホームページで技術利用ガイドが公開されていますので、是非ご覧ください。↓

<http://www.mlit.go.jp/crd/sewerage/mifukyu/06.htm>

●3月8日(木)、日本下水道事業団の野村部長をお迎えして技術サロンを開催しました！今回は、今年度最後の技術サロン。また、早いもので東日本大震災から一年。そのような中、新年度に向けて、これまでの取り組みを見つめる場にしたいと思い、「震災関連」を今回のテーマに設定しました。ゲストには、日本下水道事業団技術戦略部長の野村充伸様をお迎えしました。

野村部長は、旧建設省の大和川工事事務所や米連邦環境保護庁のリスク削減工学研究所、JICAの専門家としてインドネシア国に派遣されたという経歴も。現在は、技術戦略立案から新技術開発・導入・基準化までを一元化するため、平成23年4月に新設された技術戦略部の初代部長です。震災からの復興に当たっては、プロジェクトマネジメントと新技術の活用がキーワードだと思いますが、これに関わる取り組みを先導している立場から、「津波及び放射性物質を含む汚泥対策について」と題してお話いただきました。

内容は、地震による被害の概要、新潟県の中越及び中越沖地震を契機とするこれまでの地震対策への取り組み、現在の下水道地震・津波対策技術検討委員会による提言。放射性物質の下水道システムへの混入、施設内挙動、汚泥の取り扱いに関する考え方等々。多くの内容について、分かりやすく説明いただきました。これらの課題への対応は現在進行中ですが、知見の蓄積、英知の結集等が着実に進んでいると感じた時間でした。さて、次回技術サロンは4月12日木曜日の17:00～18:00。江戸川橋の当機構の会議室にて開催します。ゲストには東京都下水道局計画調整部計画課長の巖岩滋様をお迎えし、「

東京の高度防災都市づくりに向けた新たな取組」と題して開催します。皆様のご参加をお待ちしております！

参加申し込みは機構ホームページから。

→ <http://www.jiwet.jp/school/school-07-303.htm>

※前回2月の技術サロン、横浜市水道局 川名部長の資料を専用サイト登録者のページに掲載しました。→ <http://www.jiwet.or.jp/>

機構の動き (機構の行事予定です)

●3月16日(金) 13:00~16:45(場所:大阪市西区 大阪科学技術センター)

第17回 下水道新技術研究発表会【大阪会場】

●3月22日(木)10:00~12:00(場所:機構8階 特別会議室)

理事会 議案:平成24年度予算(案)、最初の評議員の選任方法その他

●3月22日(木) 14:00~16:00(場所:機構8階 特別会議室)

第3回 放射性物質を含む下水汚泥焼却灰の除染技術に関する評価委員会

●3月27日(火) 10:00~12:00(場所:機構8階 特別会議室)

評議員会 報告:平成24年度事業計画(案)、最初の評議員の選任方法その他

Tea Break (機構職員の感じるまま)

●時間の遅れ (ペンネーム 澄都くんからの投稿です)

先日ある雑誌で読みました"時間の遅れ"についてご紹介したいと思います。普段の生活で時間の遅れを認識されている方はおられないと思いますが、実は動いている物体の上や中では、時間が外の空間よりもわずかに遅れているようです(理由は省略します)。この時間が遅れるという現象は、一定のスピードで動くものなら何にでも適用されますので、例えば、飛行機や新幹線に乗って移動するとき、ごく僅かながら外の世界と時間が遅れることになるため、結果として少しだけ未来の世界に到着することになるのです。

そのため、もし周りに出張で飛行機や新幹線を多用している方がおられれば、その方は移動している分だけ時間の流れが遅くなっていますので、実際の年齢よりも少しだけ若く見えているのではないのでしょうか?ひょっとしたらそこにも時間の遅れの影響が出ているのかもしれない。

この動くものは時間が遅れるという考え方は、人としての姿勢にもよく表れるところではないかと思います。常に新しいことに挑戦している人はいつまでも若くいられるように思いますし、逆に、同じ環境でぬくぬく生活している人は老けるのが早いということになると思います。常に何か新しいことにチャレンジすることこそが若さを保つ秘訣ではないのでしょうか?

地における応急復旧、本復旧に活用されているところです。

今般、同委員会において、別添のとおり第4次提言「耐津波対策を考慮した下水道施設設計の考え方」がとりまとめられました。本提言は、東日本大震災を踏まえ、今後、巨大地震に伴う大規模な津波が想定される地域の下水道施設に適用すべくとりまとめられたものです。今後の下水道施設における耐津波対策に活用して下さい。

※詳細は下記 URL をご覧下さい。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000154.html

○「東日本大震災上下水道シンポジウム」の開催について【下水道企画課】

東日本大震災発生から一年を期に、本震災の被害状況等を踏まえ、今後の上下水道の震災対策がいかにあるべきかを考えるシンポジウムを開催することとしましたので、お知らせします。当日は、大学研究者の講演のほか、被災地の上下水道事業者や支援事業者等からも報告をお願いしています。

日時：平成24年3月27日（火） 10:00～18:00

場所：仙台市民会館 大ホール

主催：厚生労働省、国土交通省、(社)日本水道協会、(社)日本下水道協会

※詳細は下記 URL をご覧下さい。

http://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo13_hh_000153.html

●下水汚泥の建設資材利用サイトを更新しました【下水道協会】

(社)日本下水道協会では、3/1 からホームページに建設資材利用サイトを掲載しています。下水汚泥の建設資材利用における用途別利用量の整理や環境安全性の評価など、大幅にリニューアルしております。

※詳細は下記 URL をご覧下さい。

<http://www.jswa.jp/recycle/news/news05.html>

=====

【参考情報】

◆地域の焼却灰どこへ 放射性ごみと向き合う首都圏 <2/24 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/national/news/CK2012022402000039.html>

◆香取市予算案 震災復興で最大 <2/24 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/chiba/20120224/CK2012022402000031.html?ref=rank>

◆福知山市が機構改革 災害に備え危機管理室を設置 <2/25 両丹日日新聞>

<http://www.ryoutan.co.jp/news/2012/02/25/004815.html>

◆復興手法や復旧日程説明 袖ヶ浦地区皮切りに報告会 習志野市 <2/26 千葉日報>

<http://www.chibanippo.co.jp/c/news/local/70387>

◆マンホールのふたで地域活性化 千葉・鎌ヶ谷市 <2/27 MSN 産経ニュース>

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/120227/chb12022722320007-n1.htm>

◆熊本市の上下水道局「知識や管理に問題」 <2/28 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/kumamoto/news.php?k_id=44000001202280002

◆経験買われ南相馬へ <2/29 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/niigata/news.php?k_id=16000001202290005

◆汚染泥・土、滞留14万トン…関東7都県 <3/2 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/national/news/20120301-OYT1T00656.htm>

◆下水汚泥焼却灰 県外の民間処分場へ 埼玉 <3/2 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/saitama/20120302/CK2012030202000065.html>

◆放射線 焼却灰の倉庫次々 千葉 <3/2 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/chiba/news.php?k_id=12000761203020001

◆汚泥灰など2万1000トン 県と7市町 神奈川 <3/2 読売新聞>

<http://www.yomiuri.co.jp/e-japan/kanagawa/news/20120302-OYT8T00578.htm>

◆湖山艇庫の環境改善 シャワーと水洗トイレ実現へ <3/3 日本海新聞>

<http://www.nnn.co.jp/news/120303/20120303011.html>

◆放射性廃棄物、進まぬ処理 一時保管にも限界 稲わら、宮城・岩手も苦悩 <3/3 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/select/weathernews/news/20120303ddm003040092000c.html>

◆下水処理場を供用開始 来月1日に市原市内3番目 <3/4 東京新聞>

<http://www.tokyo-np.co.jp/article/chiba/20120304/CK2012030402000041.html>

◆下水汚泥の焼却灰 前橋市増え続ける保管 <3/5 朝日新聞>

http://mytown.asahi.com/gunma/news.php?k_id=10000901203050001

◆きれいな大和川に 住民ら6700人、河川敷を清掃 奈良 <3/5 朝日新聞>

<http://sankei.jp.msn.com/region/news/120305/nar12030502130001-n1.htm>

◆液状化予測図：詳細化、茅ヶ崎市作製へ 50メートル四方単位に /神奈川 <3/6 毎日新聞>

<http://mainichi.jp/area/kanagawa/news/20120306ddlk14040313000c.html>

◆第6回世界水フォーラム 開催へ <3/7 EIC ネット>

<http://www.eic.or.jp/news/?act=view&word=&category=&serial=26792>

～ 以上、国からの下水道ホットインフォメーションより～



発行元：財団法人 下水道新技術推進機構 企画部

〒162-0811 東京都新宿区水道町3番1号 水道町ビル7F

TEL 03-5228-6511(代表) FAX 03-5228-6512

ホームページ：<http://www.jiwet.or.jp/>

○お伝えしたい情報をお持ちの方はこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○メルマガ配信登録についてのお問い合わせはこちらから→ jiwet@jiwet.or.jp

○ニューズレターはこちらから → <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/>

○コラムの正解はこちらから→ <http://www.jiwet.jp/newsletter/20111130/seikai.pdf>

